手水舎

一般的に手水舎は境内の隅に配置されることが多いですが、当社では境内の中央にドンと置かれています。神社に用が無くて遊歩道を通行するだけの人を後方へ流すための配置と言えそうです。

佐和良義神社社殿

正面やや左側（西側）に社殿が南向きに並んでいます。

拝殿は瓦葺・平入入母屋造に向拝の付いたもの。

拝殿前の狛犬。花崗岩製の新しいものです。よく見ると左側の阿形（狭義の狛犬）は角があり鬣が直毛なのに対し右側の吽形（獅子）は巻き毛となっており、きちんと区別されています。

後方には塀に囲まれて本殿が建っています。一間社隅木入春日造で軒唐破風の付いたものです。

八幡神社

境内の東側には境内社の「八幡宮」が鎮座しています。かつて当社の西方にあった沢良宜城の鎮守だったと言われています。

社殿の脇に建つ石碑には「ヤワタの八幡宮はこの方角に当ります」とあり、石清水八幡宮への遥拝所を兼ねているようです。

八幡宮の南方に遊歩道からの境内への入口があり鳥居も建っていますが、扁額には「八幡神社」とあります。

当社が八幡神社だった記録は無いため、本社でなく境内社に過ぎない八幡宮のための鳥居ということになり、破格の待遇となっています。

歴史

古来から元茨木川堤防際にあり、延喜式内社であるが創建の年月は不明です。

明治 5 年（1872 年）村社に列す。

明治 40 年（1907 年）8 月の豪雨で川が決壊し社殿が流失。

大正 6 年（1917 年）に本殿、拝殿、器具庫を再建。

大正 5 年 5 月 28 日、神饌幣帛料供進社に指定される。

祭神：加具土大神を祀る。

「神名帳考証」は平群都久宿禰命、「神社覈録」は早良臣神歟、「特撰神名牒」は加具土神とする。

また、社前の明和 5 年（1768 年）の石燈籠に天児屋根尊とあることから、天坊幸彦は祭神に天児屋根尊を加える。

総代でもあった高橋好隆は燈籠を奉納した安井延清が高橋家より安井道頓一族家に入婿した人で、この地が中世近衛家の荘園で、先祖が藤原氏に繋がるという自覚から刻んだと推察する。